

# 平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	<b>提案機関名</b>	農業振興課
11		
※記入不要		
<b>要望問題</b> 二番茶以降の摘採に対応した栽培体系の開発		
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】		
<p>「足柄茶」の産地銘柄表示のために必要な元茶の確保のため、茶の増産について取組みが急務である。しかし、県内では一番茶を中心とした摘採がされてきており、試験研究でもこの課題を重点的に取り組んできていた。</p> <p>そこで、今後は、試験研究課題としても二番茶以降の摘採に対応した栽培体系の開発が必要である。また、経営的な側面として二番茶以降を摘採した場合の栽培体系の見直し、労働や経費等の試算についても、併せて取り組んでいただきたい。</p>		
<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内	
<b>研究対応区分</b>	①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他	
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業総合研究所
部 署	津久井試験場
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)
<b>対応の内容等</b>	<p>現在までに行っている試験は、一番茶のみの摘採をうたって行った試験以外は二番茶の摘採を前提に試験を行っています。</p> <p>また、現在までに作成されている、茶の栽培暦、防除暦及び施肥基準等は二番茶の摘採を前提に作成されています。地域により作業時期の変動は考えられますが、対応は可能と考えられます。製造コスト等の試算については、各荒茶工場で経費は異なると思われるため、現地での対応が妥当と思われれます。</p>
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>備考</b>	